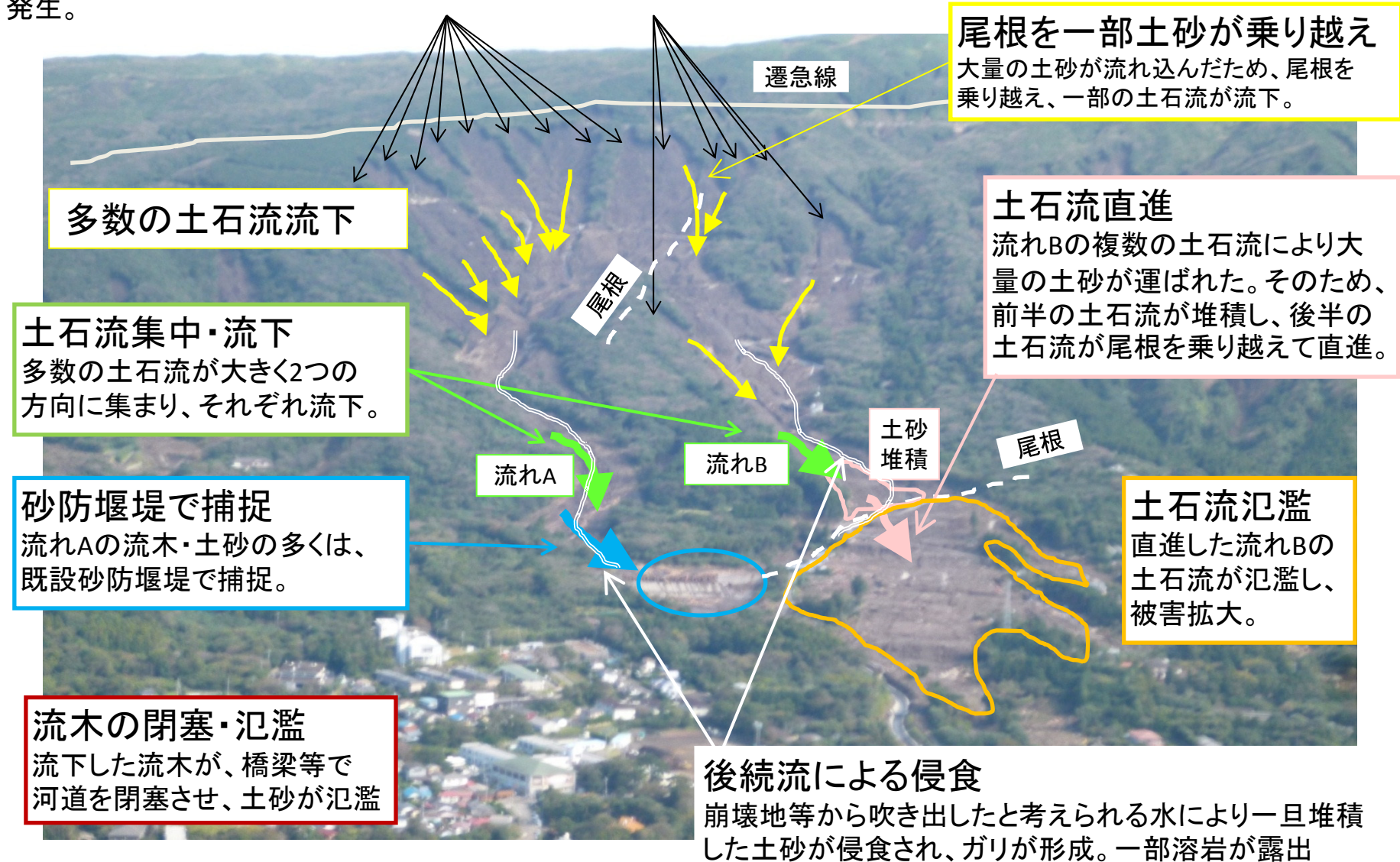


土砂災害の発生過程と特徴



多数の表層崩壊発生

遷急線直下を中心に14世紀の噴火による溶岩の上に堆積した火山灰を主体とする土層が表層崩壊。崩壊深さは概ね1m。過去に類を見ないほど狭い範囲に極めて多数の崩壊が集中。記録的な大雨が誘因となり、大量の土砂と流木が発生。



尾根を一部土砂が乗り越え
大量の土砂が流れ込んだため、尾根を乗り越え、一部の土石流が流下。

多数の土石流流下

土石流集中・流下
多数の土石流が大きく2つの方向に集まり、それぞれ流下。

土石流直進
流れBの複数の土石流により大量の土砂が運ばれた。そのため、前半の土石流が堆積し、後半の土石流が尾根を乗り越えて直進。

砂防堰堤で捕捉
流れAの流木・土砂の多くは、既設砂防堰堤で捕捉。

土石流氾濫
直進した流れBの土石流が氾濫し、被害拡大。

流木の閉塞・氾濫
流下した流木が、橋梁等で河道を閉塞させ、土砂が氾濫

後続流による侵食
崩壊地等から吹き出したと考えられる水により一旦堆積した土砂が侵食され、ガリが形成。一部溶岩が露出